

# ふーぬ風

発行 〒901-1115  
 沖縄県南部農業改良普及センター  
 TEL : (098) 889-3515  
 FAX : (098) 835-6010

## カボチャ産地の反収向上・品質安定をめざして ～地域農業振興総合指導事業で集落農業の振興を図る…南風原町山川集落 事業2年目の取り組み～

### 事業・地域概要

地域農業振興総合指導事業は、地域の農業に関する課題を実情に応じて解決し、豊かな地域社会づくりを推進することを目的として実施しています。事業実施期間は3年間で、平成 22 年度から平成 24 年度までの3年間、南風原町山川集落を対象地区としており、今年度は実施2年目となっています。

山川集落で主に栽培されている品目は、カボチャ、ヘチマ、ゴーヤー、ニラなどの露地野菜・施設野菜が中心となっていますが、南風原町は平成 16 年にカボチャの拠点産地に認定されており、山川集落はその中核を担っていることから、この2年間は「カボチャの反収向上・品質安定」を目的とし、取り組んできました。

### 事業の取り組み内容

事業導入にあたり地域リーダーを選定し、地域リーダーと関係機関で構成する推進会議を年2回開催しています。カボチャ栽培における課題を取りまとめ、活動計画、実施状況及び課題解決方法についての検討を行っています。また、山川集落全農家を対象とした「農業振興に関するアンケート調査」を実施し地域の現状・意向把握及び、関係機関による月1回の巡回栽培指導、カボチャ栽培に関する展示ほ設置を行っています。



推進会議で活動計画について検討

カボチャの課題として、交配時期の低温や長雨、季節風等の影響で、着果不良による反収低下、品質低下があげられますが、その対策として、①防風垣の設置、②花粉用品種の導入、③敷き草の徹底が必須となります（着果安定についての詳しい内容については、当普及センターだよりの2ページに掲載しております）。

防風垣の重要性については、展示ほ設置による効果の実証や検討会の開催、栽培講習会の実施により、山川集落におけるカボチャほ場での防風垣設置状況は、平成 22 年度の 52%から平成 23 年度 12 月時点で 81%に向上しています。

また、寒い時期でも従来の「えびす」より花粉の出が良い花粉用品種について、南風原町カボチャ産地協議会とJAおきなわより種子購入に対し助成があり、導入する農家も増えてきています。

さらに、地域農業情報として「山川農業だより」を発行し、事業内容等を地域住民に広く周知しています。



展示ほ検討会の様子及び山川農業だより

### 今後の取り組みについて

平成 24 年度が事業の最終年度となることから、今後は、カボチャと並ぶ主要品目であるヘチマについても取り組みを行っていく予定です。ヘチマについては、連作障害による樹勢の低下が見られ、病害虫防除等も課題だと考えています。

集落農業の活性化のため、産地の課題に対して総合的に支援を行い、豊かな明るい地域社会づくりを推進していきます。  
 (普及企画班：長山)

# カボチャの着果安定及び品質向上対策

12月までは長雨と曇天による日照不足が続き、ほ場準備の遅れや生育不良が見られました。気象庁の長期予報によると、年明けからは平年よりも気温が低く、降水量は多くなる予報が出ています。今後も厳しい環境は続きます。安定着果及び品質向上に向けた対策を紹介しますので、参考にしてください。

## 季節風対策

防風垣を設置することで季節風の被害を軽減させ、収穫時まで葉を維持することが出来ます。又、風による果実のスレも少なくなるため、品質も向上します。

### 《防風垣の種類》

ソルゴー、さとうきび、防風ネット、トンネル等

\*次年度の対策になりますが、ソルゴーは9月までに播種、さとうきびは8月までに植え付け、高さを確保してください。



ソルゴーによる防風垣



防風ネットによる防風垣

## 花粉用品種の導入

南部地区で多く栽培されている「えびす」は、13度以下になると花粉の発生が悪くなるため、ほ場に植えつけるカボチャの内、花粉発生の良い品種を1割程度植えましょう(低温でも花粉発生の良い品種:こふき、ほっこり133、ほっとけ栗たん)。



ほっとけ栗たんの着果状況

### 《管理》

- ・えびすと花粉用品種の花粉が両方ある場合は、着果率を上げるために花粉用品種で交配しましょう。
- ・花粉用品種はえびすの交配が終了してから、交配するようにしましょう。

## 雨天時の人工交配

開花日に雨が降ると、雌花に水がたまったり、花粉が濡れて着果が難しくなります。



### 《対策》

- ①開花前日の雌花にコップをかぶせます。
- ②翌朝コップを取り、交配した後は再びコップをかぶせます。



## 低温時の人工交配及び作業性向上

13度以下では開花、開葯の進行が低下するため、開花前日に雄花を採取し、花粉の確保を行います。

また、交配当日はすぐに受粉作業を行うことが出来るため作業性及び着果率も向上します。



- ①翌日開花予定の雄花を交配前日に採取する



- ②水に挿して発泡スチロール等の保温箱で管理する



- ③翌日早朝に交配する

# キク類の病害虫防除を徹底しよう!!

今期は12月の長雨・日照不足により、病気が多発しました。今後も彼岸出荷に向けて、病害虫の適期防除に努めましょう。以下主な病害虫の症状と、その対策を紹介します。

## ■黒斑・褐斑病

葉に発生し、地上部に落ちた罹病葉から降雨によって



跳ね上がり  
下葉に感染  
し、後に上位  
にも伝染して  
いきます。発

生初期を見逃さず農薬散布と、  
下葉の罹病葉の除去を行い、初

期防除に努めます。

<登録農薬>

- ・サンヨール(500倍)
- ・ダコニール1,000(1,000倍)など

## ■斑点細菌病

細菌が原因で起こり、低  
温時の多雨時に発生が多  
く、葉に黒褐色のぼんやり  
とした病斑が葉裏に現れ、  
下葉から枯れ上がります。



多湿環境が続くと、拡大して葉柄に及んで葉が枯れます。  
対策としては①窒素肥料の過多を避けて、風通しをよくする、②被害植物はほ場外に除去する、③葉を加害する害虫の防除等があります。

## ■菌核病

地際部の茎や茎の中間部に発生します。病斑部位に形成された菌核が落下して土中に残り、翌年の伝染源となります。発病適温は20℃前後で、曇天多湿の時に発生しやすいので、これからの時期注意が必要です。

<登録農薬>

- ・トップジンM水和剤  
(1,500倍)



## ■アザミウマ類(スリップス類)

被害は葉表面にケロイド状になって現れます。激しい奇形葉となります。ミナミキイロアザミウマやヒラズアザミウマの発生がみられますが、近年発生が一番多いのは、クロゲアザミウマといわれています。対策としては発生初期の防除が重要であり、定植時の粒剤処理や同系統の農薬を続けて散布せず、薬剤抵抗性の発達を防ぎます。



<登録農薬>

- ・オンコル粒剤(6~9kg/10a)
- ・アフーム乳剤(1,000~2,000倍)など

## ■ハダニ類

ハダニ類はハウス栽培等で高温乾燥の条件下で発生しやすい。ハダニは葉の組織に傷をつけ吸汁するので、葉に白い微小の斑紋が生じます。ただし葉の症状だけで、アザミウマ類とハダニ類の被害を見分けるのは難しいので、葉に寄生している虫を観察することが、重要であります。

<登録農薬>

- ・コテツフロアブル  
(2,000倍)
- ・サンマイルフロアブル  
(1,000倍)など



## ■オオタバコガ

夜間葉裏に1個ずつ産卵します。幼虫は茎間を移動するため、1頭でも被害が大きい。茎の芯を食害するので、初期防除の徹底と、薬剤抵抗性をつけないように、農薬のローテーション散布を行います。

<登録農薬>

- ・スミチオン乳剤(1,000倍)
- ・カウンター乳剤(2,000倍)
- ・ライトニングフロアブル  
(2,000倍)など



オオタバコガによる食害

# 農林水大臣賞に具志堅(乳用牛、南城市)氏 沖縄県畜産共進会



沖縄県畜産共進会(主催・同協議会)が11月1日・2日、糸満市の南部家畜市場で、開催されました。県内各地区代表の肉用牛42頭、乳用牛26頭、種豚27頭が出品されました。南部地区関係者では乳用牛の部で具志堅修氏(南城市)が農林水産大臣賞、南城市が乳用牛の部で団体賞を受賞しました。

南部地区関係者の優秀賞受賞者は表のとおりで例年に比べて乳用牛と肉用牛の部での躍進がみられました。



山城義光氏受賞記念写真



肉用牛審査風景



表彰式風景

### (第1部 肉用牛の部)

出品部門	順位	受賞者
若雌 第1類	2	城間豊季(南城市)
若雌 第2類	1	新垣孟秀(久米島町)
成雌 第1類	1	山城義光(糸満市)

### (第2部 乳用牛の部)

若雌 第1類	2	伊良波一明(南城市)
若雌 第2類	1	松本武徳(南城市)
成雌 第1類	2	具志堅忍(南城市)
成雌 第1類	3	新里菊也(八重瀬町)
成雌 第2類	1	具志堅修(南城市)
成雌 第2類	3	具志堅忍(南城市)

### (第3部 種豚の部)

経産 第2類	2	大城成孝(豊見城市)
若齢雄第1類	2	宮城清仁(南城市)

### (第4部 肉牛の部)

肉牛	6	JA東風平肥育農場
----	---	-----------

(地域特産振興班:伊福)

## 農業機械士協議会、資格取得し技能向上を目指す！！

今年度から農業機械士協議会南部支部では、会員の資質向上を図るため毎年1つの資格取得を目標にしています。初回として、7月21～23日の3日間、ガス溶接講習会を実施しましたが、8名の会員が参加し、全員が試験に合格しました。日頃からガス溶接を行っている会員もあり、今回は安全面の指導を重点的に実施しました。

来年度はアーク溶接、それ以降の年度は、フォークリフト及び小型移動式クレーン等の車両系の資格取得を目指しています。

また、平成23年11月11日に農業研究センターで、研究員とガス溶接資格を取得した会員が講師となり、他の会員へのガス溶接の研修会も開催しました。

参加者の中には来年、機械士資格取得を目指す方もいたため、試験課題の1つであるトラクターの始業点検につ



いても研修を行いました。研修の後半には、農業研究センターのアーク溶接機、ガス溶接機、エアープラズマ切断機等の機材により、各自が持ち込んだ鋼材を利用し、工具箱、ガスボンベ用運搬台などの作成に熱心に取り組んでいました。研修終了後会員から、「互いに技術の向上になり、良い研修だった。また来年も参加したい」との声がありました。

あなたも農業機械士協議会に加入しませんか。



(地域特産振興班:宮國)

# 島ヤサイを見直そう・作ろう・食べよう!

沖縄県では、平成21年度に「うちなー島ヤサイ産地化推進基本方針」を策定し、島ヤサイの生産振興を図っています。

当普及センターでは、平成21年度に八重瀬町においてカンダバー、平成22年度は南城市においてモーウイ、平成23年度は南風原町においてナーベラーを取り上げ栽培技術の確立や販売促進活動を実施しています。

とりわけ3年目に取り組んだカンダバーは、「ぐしちゃんいい菜」という商標が話題を呼び、生産組合も発足し産地化が図られています。



カンダバー(ぐしちゃんいい菜)

島ヤサイは県内どこでも栽培され、昔ながらの調理法で食され根強く愛されております。しかし近年では、「食べ方がわからない」「調理ができない」ひいては「見たことがない」など、若年層の島ヤサイ離れが見られます。

そこで生産農家や関係機関、レストランのシェフ等と連携し、簡単にできる新メニューの開発を行い、レシピ集を作成し普及を図っています。その一部はインターネットサイト「おきレシ(沖縄食材レシピネット)」にも掲載されています。

→参照 <http://www.okireci.net/>



モーウイ



ナーベラー

もっと島ヤサイを食べていただくために、レシピをご紹介します。

## ■ハンダマライス

ハンダマ(すいぜんじな)は冬野菜で、ビタミンB2、ビタミンA、鉄分を含むほか、葉の赤紫色にはポリフェノールが含まれており抗酸化作用があると言われています。



ハンダマライスは簡単に作れ、お赤飯のように炊き上がり祝い行事におすすめです。

<材料>4~5人分

お米:2合

ハンダマの葉:30枚程度

みりん:小さじ1

お酢:小さじ1

しょうが・水:適宜

<作り方>

①お米は洗っておく。ハンダマとしょうがは洗って、みじん切りにする。

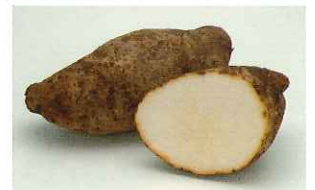
②炊飯器にすべての材料を入れ、米2合の水位まで水を入れ、炊き上げる。



## 冬~春にかけて旬の島ヤサイは...



ンスナバー(ふだんそう)



ヤマンム(だいじょ)



デークニ(島だいこん)



チデークニ(島にんじん)



ヒルクワー(葉ニンニク)



(地域特産振興班:根路銘)

## 南大東村生活研究会の活動の紹介

### 特産加工部によるカボチャを用いたお菓子の開発

離島  
情報

## 南大東島

南大東村生活研究会は昭和48年に発足し、現在は会員数39名で野菜市ゆいまーる部、趣味の部及び特産加工部の3部会体制で、村民の生活向上を目的に活動しています。野菜市ゆいまーる部では週一回の野菜市を開催し、島でとれた野菜を販売しています。また趣味の部では、ゲットウやPPバンドを材料にカゴ作りなどを行い、特産加工部では、地元の食材を用いた加工食材の開発、販売を行っています。その中で今回は特産加工部の活動を紹介します。

特産加工部の部会員は9名で、これまでの取り組みとしては、島に自生するゲットウ(方言名:ソーカ)を用いた揚げ菓子の「あっソーカ」や南大東島近海で採れるキハダマグロを用いた「マグロ味噌」と「マグロ佃煮」、地元の野菜を利用した「平成漬け」を開発し販売してきました。



ゲットウを用いた揚げ菓子を作る様子

南大東島は、農耕地の約7割でさとうきび栽培が行われる「さとうきび」の島です。近年になってカボチャの生産にも取り組んでおり、村の新たな栽培品目として定着しています。島で採れたカボチャは食味も良く、消費者からも「とても甘くておいしい」と評価が高く、島外への贈答品として利用している方もいます。

そこで特産加工部では、このカボチャに注目し、平成22年よりペーストに加工されたカボチャを用いたお菓子の開発に取り組んできました。



島で栽培されているカボチャ

会員の野原清子さんは、「島のお土産として人気の揚げ菓子里にカボチャを用いてはどうだろうか?」とカボチャ揚げ菓子を考案しました。一緒にお菓子開発に取り組んだ菊池涼子さんは、「カボチャペーストの量の調整に苦労しました。」と、笑顔で話していました。色、味、揚げ時間など試行錯誤の末に納得のいくお菓子里に仕上がりました。

商品名はカボチャの英語名パンプキンに島の方言(問いかけの「だ」)を交えた「パンプキンだ?」と決まり今年度内の販売を目指し、商品ラベルの製作に取り組んでいます。島内の小売店や空港などで販売する予定です。

新たな島のお土産として定着する事が期待されます。



完成したお菓子「パンプキンだ?」

(南大東駐在:後藤)

# 祝!南風原町農業青年クラブ「最優秀賞」

## 平成23年度沖縄県農業青年技術交換大会プロジェクト発表

平成23年11月16日(水)に「沖縄県農業青年技術交換大会」が中部合同庁舎で開催され、南部地区代表として発表した同クラブがプロジェクト発表の部で『最優秀賞』を受賞しました。

発表では「魅力あるクラブ活動の追及」と題し、クラブ活動の活性化を目的に全員で取り組んだ甘しょ栽培や食育活動、農業体験への取り組み、そして、活動を通して南風原町から青年農業士が誕生したこと等、会員全員で発表しました。

審査講評でも、全員がクラブ活動に参加しているという好印象が伺えた等、その点が高く評価されました。次年度、九州大会に沖縄県代表として派遣される他、今後の活動展開が期待されます。



南部農業改良普及センター所長への受賞報告



南風原町長へ受賞報告  
(普及企画班:橘)



発表の様子



記念撮影

## 平成23年度就農支援講座【基礎講座・専門講座】が閉講しました!

南部農業改良普及センターと南部地区青年農業者育成確保対策協議会の共催による「就農支援講座」が、11月30日で閉講しました。

今年度は、受講生26名、のべ197名が出席し、計15回の講座を実施しました。

図1受講者年齢層  
■20代 ■30代 ■40代 ■50代 ■60代

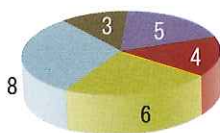
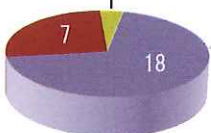


図2受講者経営類型  
■野菜 ■果樹 ■花き



講座受講の様子



### ○カリキュラム実績

【基礎講座】		内容
回	開催日時	
第1回	7月13日	・開講式 ・「知っておきたい気象の知識と防災」に関する情報提供 ・「沖縄県における台風とその対策」
第2回	8月17日	・「植物の栄養と生理」 ・「植物の栄養と施肥」
第3回	8月24日	・「沖縄県の農業の現状を知ろう」 ・「農は土から～やさしい土の話～」
第4回	9月14日	・「総合的な病害虫の防除～病害虫を発生させない心構え～」
第5回	10月12日	・「先進農業者経営事例～農業の匠に学ぶ～」
第6回	11月9日	・「農機具の安全な使い方」(雨天中止)
第7回	11月30日	・「農機具の安全な使い方」(第6回代替) ・「農業経営の三本柱～基礎知識～」 ・「知っておきたい関連制度」 ・閉講式

【専門講座:野菜コース】		内容
回	開催日時	
第1回	7月13日	・開講式 ・「知っておきたい気象の知識と防災」に関する情報提供 ・「沖縄県における台風とその対策」
第2回	8月19日	・「野菜の栽培技術①」 オクラにおける栽培技術について
第3回	8月31日	・「野菜の栽培技術②」 ゴーヤーにおける栽培技術について
第4回	11月24日	・「野菜の栽培技術③」 チンゲンサイ、ホウレンソウにおける栽培技術について

【専門講座:果樹コース】		内容
回	開催日時	
第1回	7月13日	・開講式 ・「知っておきたい気象の知識と防災」に関する情報提供 ・「沖縄県における台風とその対策」
第2回	9月15日	・「果樹の栽培技術①」 マンゴーにおける栽培管理について
第3回	9月22日	・「果樹の栽培技術②」 パッションフルーツにおける栽培管理について
第4回	9月29日	・「果樹の栽培技術③」 レイシ、アテモヤにおける栽培管理について

(普及企画班:橘)

新規就農者  
紹介コーナー

がんばれ!NEWファーマー  
酪農家になる夢を実現

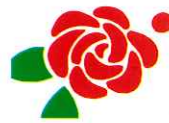
今回は、南風原町喜屋武で酪農経営を始めた新垣幸一(33歳)さんの紹介です。

新垣さんの牛舎を訪ねたところ、奥さんと一緒に忙しいながらも楽しそうに乳牛の世話をしている姿が見られました。

新垣さんは、会社勤めをしていましたが、祖父が酪農経営をしていたこともあり、酪農家になりたいと思ってたとのこと。そして、昨年、心に暖めていた夢を実現したいと考え会社を辞め、八重瀬町と南風原町の酪農家で実務研修を重ね、平成23年4月に研修先の農家の経営を継承し就農に至っています。新垣さんの現在の経営規模は、乳牛38頭で出荷先は県酪農農業協同組合です。

—南風原町—

新垣さんは、「酪農家の同志会でもっと勉強を積んで1頭あたりの乳量を増やすとともに、当面は当初計画通り40頭規模を維持して将来は、規模拡大し収益を上げたい」と話しています。今年から奥さんも一緒に酪農経営を手伝っており、「これからもずっと一緒にやっていきたい」と話していました。(普及企画班:平良)



平成23年度沖縄県青年農業士・  
指導農業士・女性農業士

認定者紹介

平成23年10月18日に沖縄県庁にて沖縄県農業士等の認定式が行われ、南部地区から4名が認定されました。今後も地域農業のリーダーとして活躍されることが期待されます。

青年農業士:神里智幸氏(南風原町):ニラ、サニーレタス等



平成18年に南風原町農業青年クラブ会長及び南部地区農業青年クラブ連絡協議会会長を務める。南風原町農業青年クラブでは、耕作放棄地の解消活動や保育園での農業体験学習による食育活動を行っており地域からの信頼も厚い。

指導農業士:仲西栄二氏(糸満市):サラダ菜、ニンジン等



JAおきなわ糸満支店野菜部会長を平成17年から現在まで務めている。営農形態もパミスサンド栽培を取り入れるなど模範的な存在である。新規就農者等の研修受入を行うなど後継者育成に積極的であり地域からの信頼も厚い。

指導農業士:上原俊一氏(南城市):マンゴー、パッションフルーツ等



JA おきなわ大里支店果樹部会長を平成17年から現在まで務めている。高い栽培技術を持ち、リーダーとして地域を牽引している。地元中学生や農林高校生の農業体験受入を行うなど後継者育成に積極的であり地域からの信頼も厚い。

女性農業士:大城初美氏(南城市):さとうきび、さやいんげん等



JA おきなわ玉城支店女性部副部長、農業委員等を務めた経験もある。さとうきび栽培に関しては競作会で優秀な成績を修めるなど優れた栽培技術を持つ。地元中学生の農業体験を受入れるなど地域からの信頼も厚い。



平成23年度沖縄県青年農業士、指導農業士・女性農業士認定式

(普及企画班:濱盛)